



腎臓内科

後期研修

プログラムの目的と特徴

3年目研修内容と目標： 当院腎臓内科・人工腎臓部または透析認定施設での研修となります。腎疾患を理解するためには腎臓病学だけではなく、循環器・内分泌・代謝・免疫病学などの内科一般はもとより生理学・病理学・基礎医学の幅広い知識と技術が要求されます。既に基礎研修で修得した基本的態度や技術、知識に専門性と経験をくわえ、幅広い能力を有する内科医となるよう研鑽を積んでいただくとともに、あらゆる腎疾患および全身性疾患に伴う二次性の腎障害・透析に対する理解を深め、専門医としての診療ができるよう専門的な診断法や治療法を確実に修得することが目標です。病棟主治医として自ら入院患者の治療方針を立てられるように指導します。人工腎臓部においても診療を行い、先進的血液浄化療法の経験、維持透析患者の管理を修得していただきます。また研修中に修得した一般内科医としての知識確認と、将来へのキャリアを積むという意味で、内科学会の認定医資格を取得するよう指導しています。

4年目以降の研修

二-三年間を大学で研修した後、学会の教育認定施設である関連病院へ一般内科医または腎臓内科医として赴任し研修を続けることは可能です。ここでは京都大学腎臓内科における研修についてのみ記載します。

4年目の研修内容と目標：

指導医の指導のもとで病棟主治医として急性腎不全、水・電解質代謝異常、各種腎炎、ネフローゼ症候群、保存期慢性腎不全、透析導入症例、維持透析症例などを経験していただきます。それらの病態を理解し、自分である程度診断できる能力を養い、適切な治療法が実践できることが目標です。人工腎臓部における研修では透析回路のプライミングの経験、先進的血液浄化療法、透析患者の長期管理、他科からの依頼患者のコンサルトに的確に対応する経験を積んでいただきます。また外科学的手技に興味がある方には内シャント手術の介助も経験していただきます。

5年目の研修内容と目標：

4年目に習得した専門領域に関する知識と技術を向上させ、急性疾患や難しい病態についても自分で判断し適正な治療を選択できるようにすることが目標です。この時期には外来を担当していただき、シャント手術も実施していただきます。また、そうしたトレーニングを受けながら受験資格の得られる、腎臓内科専門医、透析認定医などの習得を目指します。腎病理については病理学教室と合同で毎週ひらかれる腎生検検討会において、交代で診断医をつとめその診断能力を向上させます。

臨床研究については症例報告の他、各人に対して長期的な課題が与えられます。研究のデザインや臨床データの解析をスタッフと検討することにより臨床研究を継続的に行っていただきます。最終的には国際的成果が得られるよう研究や学会発表を活発に行い、将来、先進的な医療や研究を遂行しうる能力を育成するとともに、英語論文を作成し、博士号を取得するよう指導が行われます。

6年目の研修内容と目標：

腎臓・透析専門医としての診療ができるよう過去に培った知識や技術にさらなる磨きをかけるとともに、研修医に対する内科診療全般の指導に加え、後輩医師に対して当科領域の指導が行えるよう努力していただきます。また学会、研究会、講演会への活発な参加によって、臨床的にも学問的にも一流の医師として活躍できるよう努力していただきます。さらに上級の指導医、後輩医師、研修医と緊密な関係を保ちながらチーム医療を遂行する能力も育成します。

継続的な臨床研究については、英語論文の完成を目指し国際的評価が得られるよう努力していただきます。

診療科の主な症例

主な症例：腎炎・ネフローゼ症候群・ループス腎炎・急性腎不全・慢性腎不全。

取得できる認定医・専門医

内科認定医（3年目）、腎臓内科専門医、透析専門医

他科研修の可能性

あり

留学の可能性

あり

関連大学病院等

静岡県立総合病院
静岡市立静岡病院
大津赤十字病院
洛和会音羽病院
京都市立病院
三菱京都病院
天理よろず相談所病院
北野病院
大阪赤十字病院
兵庫県立尼崎病院
西神戸医療センター

関連病院での研修

大学病院連携型高度医療人養成コースを参照してください。

後期研修修了後の進路

大学院入学、関連病院勤務

指導医からのコメント

腎疾患ではERで活躍できるような派手さはありません。しかしながら、腎疾患の特徴として表面的な症状が現れないうちに、非可逆的病変が進行している場合が多くあります。従って、命に関わる分単位の緊急性はほとんどの場合ありませんが、全身症状・鑑別診断・画像診断全てをじっくり考えて対処することを要求されます。

腎疾患は二次性のものを合わせると疾患が多岐にわたるため、全身を診る能力と多くの知識が要求されます。また腎炎から腎不全・血液浄化療法・腎移植の各分野でも腎生検・腎病理診断・内シャント作成術など多くの手技が必要とされます。こうした知識と技術力を習得するには各人の習得した基礎的能力の上に教育指導システムが充実していなければ難しいと思われれます。かたや社会的なニーズとして、現在維持透析患者は29万人を超え、さらに毎年1万人以上増え続けています。つまり国民の400人に1人が透析を受け、透析にかかる医療費が年間1兆円を超える時代になっています。その予備軍である慢性腎臓病患者にいたっては400万人以上と推定されていますが、腎臓専門医は全国で3000名弱です。京大関連病院をはじめとする多くの市中病院において上記の能力を備えた腎臓内科医を希望する声はこれまでにいじょうに大きくなっています。

当科はこうした要望に応えるべく知識・技術が習得できる教育カリキュラムを組んでおり、やる気のある人の参加を心待ちにしています。